

平成 21 年度 大和市障害者自立支援協議会 第 4 回定例会 議事録

場 所： 大和市障害者自立支援センター
日 時： 平成 22 年 2 月 22 日 17:00 ~ 19:00
出席者： 下記参照

出席者：定例会委員（敬称略、定例会組織図順）

佐野文彦（あゆみの家）、村元良悦（社会福祉協議会）、
鳥原信一（大和市身体障害者福祉協会（視覚））、春日恵美子（大和市手をつなぐ育成会）、
田村桂子（（特非）大和さくら会（精神障がい者家族会））、
辻田淳子（神奈川県立瀬谷養護学校 地域支援担当）、星野宗吾（自立支援センター）
松本孝治（サポートセンター花音）、目黒裕（松風園）、関水貴浩（福田の里）
澤田眞理子（大和保健福祉事務所保健予防課）、
菊地原広憲（大和市健康福祉部障がい福祉課）、
高橋正敏（大和市身体障害者福祉協会（肢体不自由））※

注）※オブザーバー出席者

事務局

佐藤倫孝、三瓶悦子（自立支援センター）、山田兼右（松風園）、関水覚（福田の里）、
五十嵐衛（サポートセンター花音）、
進藤隆、笹岡整（大和市健康福祉部障がい福祉課）

欠席者： 宇山秀一（県央療育センター）、山岸安志（大和障害者地域生活支援ネットワーク）、
阿南由美（大和市教育委員会総務部指導室）、成澤一之（ワークステーション菜の花）
大沢茂子（大和市身体障害者福祉協会（内部））※、
田辺暎夫（大和市身体障害者福祉協会（聴覚））※

注）※オブザーバー出席者

内 容：

- ・会長挨拶
- ・大和保健福祉事務所保健予防課、来年度の委員が澤田眞理子氏から他の職員に変更となる。

〔 議 題 〕

1、相談支援事業 活動報告

①実績報告

- ・資料に基づき、事務局より説明。

【質疑応答】

- ・相談述べ件数、知的が下がってきているが、理由は何か。高次脳機能障がいの方からの相談は、複数の方からの相談か（委員）。
→4月に関しては不況の影響もあり、就労に関する相談が多かった。高次脳相談は、特定の方からの継続相談。（事務局）。

・相談の実人数を教えてください（委員）。

→実件数はその日でカウントをしている。月をまたがって継続している人はカウントが、だぶってしまう（事務局）。

→実人数（障がい別）を報告して欲しい（委員）。

→5分以内で終わる相談も含まれているか（委員）。

→含まれている（事務局）。

②事例報告（事例を通した課題提起）

(1)「学齢期の家庭での過ごし方、不登校について具体的な支援を要する象徴的な相談事例」

(2)「更生施設で機能訓練を終えた後の、地域での生活について」

・資料に基づき、事務局より報告。報告及び質疑応答の詳細については、個人情報保護のため省略。

3、専門部会活動報告

①児童部会

・資料に基づき、事務局より報告。

【質疑応答】

・子育ての中で「気付いていない」母に対しての関わりはどうか（委員）。

→子育て支援という部分については、メンバーに子ども部保育家庭課にも入ってもらっている。現在のメンバーは教育関係が多い。年間の相談件数は増えているが、受け入れ先の少なさも課題として上がっている（事務局）。

→学齢期に伴う継続性が大切。家族を受容し、トータル的に支援すべきである。部会として連携し、課題に取り組んで欲しい（委員）。

②就労部会

・資料に基づき、事務局より報告。

【質疑応答】

・受注量の低下、働く場の減少。対応を検討しているところである。近隣市町村との連携、ネットワークの効果や目的を確認等について検討してきた（事務局）。

・福祉の作業内容は様々だが、受注先にそれらをつかんでもらう。仕事はあるが、内容によって着手できない。自主製品も市場ベースにするのは難しい。アイデアがあれば提案をして欲しい（委員）。

・営業活動のパンフレットの内容はどのような内容であるか（委員）。

→市内の施設間で、お互いの受注内容は知らない。それらの得意分野などをアピールしていきたい（事務局）。

→具体的な施設の特色や設備をアピールしてはどうか（委員）。

③精神部会

・資料に基づき、事務局より報告。

【質疑応答】

・重度障害者医療費助成が、精神障がい者のみが適用されていない。通院医療のみ1割負担で、その他は3割負担となっている。大和市と座間市のみが県央地域の中で適用されていない。運動をしていきたい（委員）。

→県内の 12 市町村で実施している。財政的な部分がある。県に各市町村と一緒に働きかけをしている（委員）。

- ・あゆみの家でも、新しい利用者を受け入れる事が出来ず、待機してもらっている。部会で課題として出しているが、少し薄い気がする。日中場所の検討も部会の中で行って欲しい（委員）。

→待機者に関しては、他の作業所も利用が始まっている。大和市内の作業所も市外を受けているが、市外の利用も考えたい。新しい事業所の話もある（委員）。

- ・精神病院からの地域移行は難しいのでは。精神病院から福祉ホームへの移行等も事例検討課題としてはどうか（委員）。

- ・資源の不足感ではなくて、本来のニーズや本人が選択できる資源をトータルでみる必要がある。作業所に限らず、「居場所」の検討を行って欲しい（委員）。

④身障部会

- ・資料に基づき、事務局より報告。

【質疑応答】

- ・移動支援、政権が変わったが、現在は停滞している。市としてはヘルパーをどう増やしていくか等、出来る事の検討して欲しい（委員）。

- ・ガイドヘルパーの資格要件は（委員）。

→ヘルパー2級が条件としている（委員）。

- ・ガイドヘルパーを増やす為には、市として具体的な政策が必要ではないか（委員）。

→数はまだ少ないが、徐々に新規事業所も増えている（委員）。

→ガイドヘルパーは、居宅支援は行わないので、移動支援に特化したものを作ってはどうか（委員）。

→移動支援の範囲は広く、難しい対応もあるので、ヘルパー2級は必要である（委員）。

- ・ヘルパー養成講座については、事業所で検討してはどうかという話があったが、以前は実施されていたが、現在はどうなっているか。社協での実施は考えていないか。費用の問題であるのか、それとも労力等の課題であるのか

→県央福祉会では、現在は養成講座の話は具体的に出していない（委員）。

→社協としては現段階では予定していない。今年度、高齢者分野において事業所が共同で人材発掘の取組みを行った（委員）。

- ・社協にはボランティア団体がある。ボランティアに移動支援に関する知識が無い。その方々に対し移動支援の知識や技術を社協で実施する予定はあるか（委員）。

→ボランティアセンターには様々な活動がある。この件について具体的には内部での調整が必要（委員）。

→逆にボランティアに対して具体的にどの様な知識や技術が足りないかを提示して欲しい（委員）。

4、その他

○協議会として、大和市のフォーラムや勉強会をやってはどうか。プロジェクトチームを組まないとなかなか難しいのでは（委員）。

→次回の事務局会議や定例会で検討したい（事務局）。

○市の障がい福祉計画と障がい者福祉計画に対し、パブリックコメントを募集している（委員）。

○障がい者福祉計画について、冊子の中に地域自立支援協議会の紹介と児童部会で作成した相談のマップを掲載したい（障がい福祉課）。

○次回の定例会は、6月。

以 上